大学における外国人保護者の子育て支援：日本語教室で『幼稚園のにほんご』を使用して

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2021-11-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 樋口, 尊子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4610

大学における外国人保護者の子育て支援

―日本語教室で『幼稚園のにほんご』を使用して―

樋口　尊子

要旨

２０１６年10月より本学で地域の日本語学習者への支援として日本語教室を開設することになった。対象者は本学が女子校ということもあり子育て中の日本語学習者とした。そこで筆者が作成した幼稚園に子どもを通わせる外国人保護者が園から子どもが持ち帰る手紙を読むことを学ぶためのテキスト『幼稚園のにほんご』(注1)（詳細は後述）を使用することとなった。このテキストは２００９年に地域日本語教室の学習者のために作成したものであるが筆者が実際にこれを使用してクラス活動を行うのは今回が初めてである。そこで教室の最後にアンケートを行い、テキストについての意見を得た。その結果、内容や量については概ね好評であり、要望としては会話、ディスカッションなどをする時間を増やし情報を得ることが求められた。筆者自身も実際に使用する中で情報提供が不足していると感じた。また、今後の希望では医療について学習したいという声が多かった。以上のことから①各テーマについて学習者が広く情報を知ることができる内容の追加、②園の先生とコミュニケーションをとることができるような問題の作成、③子どもの病気や予防接種など園から持ち帰る手紙の中で医療に関係する内容のユニット増設が改善点であると考えられた。

キーワード

日本での子育て　外国人保護者　幼稚園の日本語　日本語教室
日本語ボランティア　日本語支援

1．はじめに

日本語教育課程がある本学で地域日本語教室(注2)を開設することにな

り、筆者も協力をすることになった。地域日本語教室（以下、日本語教室）を開設するにあたり本学が女子校であること、児童学部、付属幼稚園があるという理由から本学ならではの内容として、子育て中の女性を対象にすることになった。樋口（２０１４）で述べたように子育て中の日本語学習者に対する日本語支援は全国的にまだ十分でなく、外国人保護者に知識を提供できるような場が持てることが期待されている。今回の教室の開設は筆者にとって以前より望んでいた場となった。そこで使用する教材の検討があり、筆者が以前作成した『幼稚園のにほんご』というテキストを使用することになった。このテキストは後述の通り、幼稚園に子どもを通わせる外国人保護者が対象で日本の幼稚園で使用することばについて学習することを目的としている。筆者自身がこのテキストを使用してクラス学習を行ったことはまだなく今回が初の試みとなった。実際に使用する中で筆者自身も問題点に気づくことも多く、改善が必要だと強く感じられた。そこで同教室に通う参加者にアンケート調査を行いテキストについての意見を求めた。そこで明らかになった改善点について本稿では述べる。同時に今後の支援についても考察を行った。

２．テキスト『幼稚園のにほんご』について

２―１．テキスト作成の経緯

『幼稚園のにほんご』を作成したのは２００９年でＮＰＯ東大阪日本語教室[注3]で学習する日本語学習者への支援が目的であった。特に当時支援が十分でないと感じた子育て中の日本語学習者に対してアンケート調査を行ったところ幼稚園や小学校から子どもが持ち帰る手紙が自分の力で読むことができないという回答が多くあった。そこでまず、子どもが初めて社会へ出ると考えられる幼稚園から持ち帰える手紙に注目してこのテキストの作成を行うことにした。

２―２．テキストの構成と目的

テキストは『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう』（以後、『お知らせを読もう』）とボランティア用手引きにあたる『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう～ボランティア用～』（以下、『ボランティア用』）と別冊『幼稚園のにほんご　お便りを読もう』（以下、『お便りを読もう』）の3冊がある。『ボランティア用』というは、地域日本語教室で学習者をサポートする日本語ボランティアに向けて学習する際のヒントや進め方、注意事項などを記したものである。

『お知らせを読もう』はユニット1からユニット9の9つのテーマで構成し、それぞれの内容について学習できるように作成した。

テーマは次の通りである。

ユニット1　入園準備（持ち物を準備する）
ユニット2　入園式
ユニット3　園の一日（給食・お弁当・降園時間・預かり保育）
ユニット4　遠足
ユニット5　プール
ユニット6　お泊り保育
ユニット7　夕べの集い
ユニット8　運動会
ユニット9　卒園式

『お便りを読もう』は『お知らせを読もう』と併用できるようにユニット1からユニット9までは同様の内容があり、さらに以下の2項目を設けた。

ユニット10　参観日
ユニット11　生活発表会

（巻末に『お知らせを読もう』のユニット1を掲載『お便りを読もう』はブログ参照）

『お知らせを読もう』と『お便りを読もう』の違いは「お知らせ」とは園からの連絡事項であり、そこから保護者が持ち物を準備したり指定された日時にその場所へ行ったり主にアクションを起こす内容のことをいい、「お便り」とは園からの報告事項で園での子どもたちの様子や行われた行事の内容などを指す。『お知らせを読もう』ではことばを覚え、お知らせを読み、内容の把握をすることを目的としている。『お便りを読もう』は漢字学習を中心としたテキストで、『お知らせを読もう』と同様のトピックの文を読めるようになることを目的としている。幼稚園からの手紙によく用いられている漢字を分析し、その結果をもとに特に多く使用されていた漢字166字を学習できるように作成した。

2―3．ユニット内の構成とテキストの使い方

『お知らせを読もう』の1ユニット内の構成は、「話しましょう」「ことば」「練習」でそれぞれの詳細は以下の通りである。

「話しましょう」

ユニットを始める前にテーマについて話す。ボランティアは自身の経験を、学習者は自国での経験の有無やその内容を話す。基本的なことばがわかるかの確認にもなる。

「ことば」

各ユニットのテーマで必要なことば、特にお知らせを読む上で知っておくべきことばを覚える。すべてのことばにはイラストを掲載、イラストの上の部分に漢字語、カタカナ語の場合はそれぞれ漢字、カタカナで表記し、イラストのトの部分にひらがなで読みを示している。学習者が覚える場合にはトのひらがな部分を隠し使用する。テキスト作成時に行ったアンケートにひらがなは読むことができるがカタカナは読めないという回答が多かったためこのような構成にした。最後に覚えられたかどうか確認する際はひらがなを隠し声に出して読み、ボランティアが正しく言えているかをチェックする。

「練習」

練習には練習1〜4があり（練習4はユニット1とユニット6のみ）、練習1は「ことば」を覚えるための項目、練習2はことばが覚えられたかどうかを確認する問題、練習3はそのテーマについて書かれたお知らせを読む問題である。練習2はことばとイラストを線で結ぶ、漢字の読みを書くといった簡単な内容で、練習3のお知らせは実際の幼稚園からの手紙をやさしい日本語に書き下ろしたものを読んで質問に答える内容だ。練習1・2の回答は学習者が声に出し、ボランティアが正しく言えているかを確認する。練習3はボランティアと一緒に声に出して読み、学習者は各質問に口頭で答える。ユニット1の練習4は「名前付け」の活動で学習者が持ち物に子どもの名前を書く練習を行う。ユニット6の練習4では子どもがお泊り保育に参加する前に書くことになる健康チェックカードを模擬体験する。

『お便りを読もう』は漢字を覚え文章を読めるようになるのが一番の目的であるため、①ルビ付きのお便り文章を読み内容を理解、②読めなかった漢字の読み方を書き覚える、③漢字の読みを覚えられたかの確認問題、④①のルビなし文章を読むといった構成である。ボランティアは文章内の学習者が知らないことばの説明、読めなかった漢字について解答の提示、ことばおよび文章を音読しアクセント、イントネーションを学習者に伝える役割を持つ。ただし、読むこと覚えることがメインであるため漢字やことばを調べることができる学習者であれば自習が可能である。

3．日本語教室について

3―1．教室の概要

期　間　2016年10月〜12月（週に1回）
回　数　全10回
時　間　10時40分〜12時10分（90分）
場　所　キャンパス内の教室
参加者　学習者7名
　　ボランティア10名（地域日本語教室で活動している者）
　　本学学生13名（日本語教育、幼児教育などに興味のある者）
　　教職員5名（筆者を含む）
使用教材　『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう』
　　『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう〜ボランティア用〜』
　　『幼稚園のにほんご　お便りを読もう』

大学の授業開始に合わせ、10月をスタートとし全10回の日本語教室を開設した。大学の講義に合わせ90分に設定、本学学生（以下、学生）が自由に参加できるようにし『お知らせを読もう』をメイン教材とした。『お知らせ読もう』がユニット1からユニット9であったため第1回から第9回までをテキストの内容に沿って進め、第10回はアンケートと「お弁当」をテーマとした。『お便りを読もう』

は自習が可能であるため適宜配布した。なお、初回の前週にボランティアガイダンスを行った。学習者の母語は中国語・ベトナム語の2言語、全員簡単な読み書き会話が可能で日本語能力試験[注4]はN1合格者1名とN4合格者1名でその他未受験。子育て中が4名でうち既に幼稚園に子どもを通わせている学習者が1名、未就園児がいる学習者が3名である。ボランティアは全員に3年から20年の日本語ボランティアの経験があり、うち3名が日本語教師の有資格者[注5]である。

3―2. 教室活動の概要

『幼稚園のにほんご』は地域日本語教室でボランティアとペアで学べるように作成したテキストであるため、今回の教室でも地域日本語でボランティアをしている方々の協力を得た。しかし今回はクラス全員で同じことを学習するのでペア学習ではなくクラス学習を行うことにした。クラス学習を行うにあたり「地域日本語教室における1回1トピック型クラスの実践」（樋口他２０１３）を参考に毎回コーディネータを1名設置した。コーディネータは講師とボランティア、日本語教育を学ぶ学生が担当した。学習者はボランティアとペアまたは学生と3人のグループになり学習を行う。ボランティアと学生はコーディネータが指示した内容で学習者のサポートを行った。ボランティアの参加は全10回参加しなくてもよいということにしたためペア（グループ）は固定せず毎回変えるようにした。その日学習する内容に集中できるようテキストは初回に冊子として渡さず、毎回1ユニット分をプリント配布した。ボランティアと学習者には『ボランティア用』を配布した。

3―3. コーディネータの役割

コーディネータはその日の学習の進め方を決め、準備し、クラスの進行役となる。毎回、異なる者がコーディネータを担当したが概ね「導入→ことばの説明→練習→まとめ（→発展・活動）」という流れで行った。10回中講師が5回、ボランティアが3回、学生が2回コーディネータを担当した。

導入ではテキスト内の「話しましょう」を用い、学習するテーマについての基本情報などをコーディネータが提供した。ことばの説明では準備可能なものはすべてレアリアを準備した。行事については写真をスライドに投影した。練習はペアもしくはグループでボランティアと学生が学習者をサポートする。その際、『ボランティア用』を参照してもらった。その間、コーディネータは教室内をまわり質疑応答などを行った。まとめでは、学習者に対してそのトピックで学習した内容が覚えられているか確認するような質問をしたり、ボランティアと学生の体験談などを話してもらったりした。

4．調査について

4―1．概要

10回設けた教室の最終回にあたる10回目にアンケートを配布し無記名で回答を得た。アンケートは学習者用とボランティア用をそれぞれ作成し、学生はボランティア用で回答を行った。有効回答数は、学習者が5、ボランティアが7、学生が5であった。学習者用のアンケートは4名が日本語で書かれたもの、1名は母語で書かれたものを利用した。自由記述の回答には母語で使用しても良いとした。主な項目は以下の通りである。

1．教室の回数と時間について
2．満足度について
3．学習について
4．テキストについて
5．今後の教室への意見・要望

本稿では「4．テキストについて」で得られた結果を中心に用いて改善点を考察していく。「4．テキストについて」で尋ねた項目は以下の通りである。

（1）テキスト（全体）の内容
（2）ボランティアとしてサポートする上でのテキスト（全体）の内容
（3）テキスト内の問題
（4）1回に学習する内容量
（5）「ことば」の数はどうですか
（6）「ことば」の翻訳の必要性
（7）今後テキストが役立つと思うか
（8）テーマの設定
（9）サポートのしやすさ

（3）は学習者のみ回答、（2）（8）（9）はボランティアと学生のみ回答、それぞれ選択肢を設け最も近い意見1つを回答する形式を用いた。

4―2．テキストに対するアンケート結果

前述の各項目に対する回答は次の通りである。（「―」で記した箇所は学習者アンケートに選択肢がないため「―」と記した。）

（1）（学習者用）テキスト（全体）の内容はどうですか。
（1）（ボランティア用）学習者にとってこのテキスト（全体）の内容はどうだと思いますか。

	学習者（5）	ボランティア（7）	学生（5）
難しい	0	0	0
やや難しい	0	2	0
ちょうどいい	1	4	4
易しい	4	1	1

（2）（ボランティア用）ボランティアとしてサポートする上でテキスト（全体）の内容はどうだと思いますか。

	ボランティア（7）	学生（5）
難しい	0	0
やや難しい	1	0
ちょうどいい	6	5
易しい	0	0

（3）（学習者用）テキスト内の問題はどうですか。

	学習者（5）
難しい	0
やや難しい	0
ちょうどいい	1
易しい	4

（4）1回に学習する内容量はどうですか。

	学習者（5）	ボランティア（7）	学生（5）
多い	0	0	0
やや多い	—	0	0
ちょうどいい	4	7	5
やや少ない	—	0	0
少ない	1	0	0

（5）「ことば」の数はどうですか。

	学習者（5）	ボランティア（7）	学生（5）
多い	1	0	0
やや多い	—	1	0
ちょうどいい	3	5	3
やや少ない	—	1	2
少ない	1	0	0

（6）「ことば」に翻訳が必要ですか。

	学習者（5）	ボランティア（7）	学生（5）
必要だと思う	1	2	0
必要ではないと思う	4	4	4
どちらでもよい	0	1	0
未回答			1

（7）今後テキストが役立つと思いますか。

	学習者（5）	ボランティア（7）	学生（5）
そう思う	5	4	5
少しそう思う	0	2	0
そう思わない	0	0	0
未回答			1

（8）テーマの設定は適切ですか。

	ボランティア（7）	学生（5）
適切だと思う	6	5
テーマが少ない	0	0
必要でないものがある	0	0

未回答1

（9）このテキストでサポートするのはどうでしたか。

	ボランティア（7）	学生（5）
サポートしやすい	5	4
サポートしにくい	0	0
どちらでもない	2	1

4―3．テキストに対するアンケート結果からの考察

（1）学習者の結果からの考察

質問（1）テキスト（全体）の内容については学習者の4名が易しい、1名はちょうどいいと回答した。質問（3）テキスト内の問題にも易しいと答えたのが4名、ちょうどいいが1名で全体の内容と一致している。しかし、質問（5）「ことば」の数については多いが1名、ちょうどいいが3名、少ないが1名であった。また、質問（4）1回に学習する内容量についてはちょうどいいが4名で少ないが1名である。つまり概ね情報量としてはちょうどよく、問題は易しいということだと考えられる。さらに、質問（6）「ことば」に翻訳が必要かという問いに対しても4名が必要ではないと答えていることから今回の学習者にとっては問題とことばのどちらも易しかったということが言える。ただし、「ことば」に翻訳が必要と答えた学習者が「ことば」の数が多いと答えたことからこの学習者にとっては、問題は易しいと感じたがことばについては数が多く難しかったと考えられる。各ユニット内の「ことば」では偏りがあるが8～20個の語彙を提出しており一般的な外国語学習で学ぶテキストに比べれば決して多いわけではない。しかしこのテキストの「ことば」には普段耳にしないことば（例えば、スモック、かけっこ、降園時間など）が多いためそう感じたかもしれない。問題の難しさについては、子育て中の日本語学習者に対して難しい問題で自信をなくすのではなく、学習時間内に楽しくことばを覚えることを助けるような易しい問題にすることを意識し作成したのでこのような結果が出たことは狙い通りであった。質問（7）の今後役立つかどうかについては全員が役立つと回答した。既に園に子どもを通わせている1名もそうでない4名も役立つと回答したことからテーマの設定が妥当であり外国人保護者にとって初めて知る内容が多かったと推測される。

（2）ボランティアと学生の結果からの考察

ここではボランティアも学習者もサポートする者と考え、両者の意見を合わせて述べる。その際、学生も含めボランティアと表現する。質問（2）テキスト（全体）の内容について11名がちょうどい

いと答えたが1名がやや難しいと答えた。易しいとの答えがなかったのは学習者をサポートすること自体が易しいことではないということであろう。やや難しいとした回答者は質問（1）で学習者にとってもテキストの内容がやや難しい、質問（6）の「ことば」の翻訳も必要と回答している。質問（5）「ことば」の数についてはやや多いが1名、ちょうどよいが8名、やや少ないが3名で、やや多いとした回答者は質問（1）学習者にとってこのテキスト（全体）の内容の問いにやや難しいと回答している。ペアは毎回変えたため前述のことばに翻訳が必要と回答した学習者のことを指しているかどうかはわからないが、これらの結果から「ことば」を理解することが困難な学習者がいたということが推測できる。また、今回のアンケートは毎回ペアを変えることで回答する基準が難しかったと思われる。質問（9）テキストのサポートのしやすさでは9名がしやすい、3名がどちらでもないであった。内容、ことばの数とサポートのしやすさは関係性がみられなかった。質問（9）にはその理由について自由記述欄を設けた。残念ながらどちらでもないと回答した3名は無記入であったためその理由は不明だが、サポートしやすいと回答した理由には「ボランティア向けのアドバイスがあって助かった」「サポートする内容が記載されているので進めやすかった」などがあり『ボランティア用』をうまく活用できたことが要因でありそうだ。一方で「（テキストを）当日配布されるので戸惑うこともあった」つまり前以て『ボランティア用』に目を通しておきたいという意見も付け加えられていた。どちらでもないと回答した3名ももしかすると同じ理由であったかもしれない。ボランティアへあらかじめテキストを配布し内容を理解した上でサポートしてもらうことは今後の課題としたい。

（3）両者の結果からの考察

全体的にアンケート結果を見ると学習者とそのサポートをするボランティアにとってこのテキストは概ね好評だったと判断できる。質問（1）テキスト（全体）の内容については学習者の4名が易しい、1名はちょうどいいと答えたのに対し、ボランティアは学習者にとってやや難しいが2名、ちょうどいいが8名、易しいが2名であった。学習者には難しい、やや難しいと回答したものがいなかったのに対しボランティアには回答があり、学習者の5名中4名が易しいと回答したことに対しボランティアは12名中2名しか回答がなかったことは興味深い結果である。ボランティアが思うほど学習者には難しいと感じておらず、ボランティアは学習者を低く評価しているのかもしれない。

5．テキストを使用したコーディネータの感想・意見

5―1．筆者の感想・意見

筆者が今回この教室でテキストを初めてクラス学習のコーディネータとして使用して最も感じたことは、学習者が受け身になるのでは

なく主体になりアウトプットできる機会を設けるべきということだ。樋口（2016）で言及したように園から持ち帰る文書のほとんどは保護者がアクションを行わなければならないため実際にアクションを起こす体験などができると有効だと感じた。ユニット1では練習4が「名前付け」となっているため実際に名前シールを用意し学習者に子どもの名前を記入する体験をしてもらった。この体験の中で、「中国語の名前も漢字ではなくひらがなで記入することを知った」、「ベトナム語の名前は途中で分かち書きをしなければならない」など多くの発見をすることができ、大変意義があると感じた。しかし、その他のユニットでは情報のインプットが主な内容であり実際に体験することは少ないと感じた。そこで教室の途中ではあったが、ユニット6「お泊り保育」では練習3で「必要な持ち物はどれですか。いいましょう。」という問題を、「絵の中で、必要な持ち物はどれですか。○をしましょう。」と問いかけを変更し、カバンにものを入れるわけではないが、必要なものを選んで○を書くというアクションを求める内容へ変更した。もちろん、実際の準備をするわけではないが、前者の場合は単なる読解問題で文中のことばを読み上げていたのに対し、後者は読解した内容を把握したうえで既習の語彙（イラストのみ）から選択することでより実際に近い練習となった。このように他のユニットの練習も工夫が必要だと感じた。

また、今回のクラス学習ではボランティアに自身の体験談などを話してもらう機会を設けたことで、テキストだけでは学ぶことのできない幅広い情報提供を行う場を設けることができた。樋口（2014）で論じている通り幼稚園で使用されることばや行事についてはバリエーションがありテキストだけではカバーできない。しかし今回、教室に集まる異年齢異地域でそれぞれが経験したことを話すことは学習者にとって知識の幅が広がり貴重な機会となった。

時間とテキストの内容量についてアンケートではちょうどよいという評価を得たが実際には90分のクラスで行うには話題がやや少なくコーディネータは時間を余らせることがあった。事前にテキスト内の情報では情報不足と感じられたユニットはテキスト以外の情報を補足することがあった。一方、ペアもしくはグループで学ぶ際には時間を持て余すことはなかった。つまり、ボランティアにはテーマに対する情報の多さが求められる。活動を見ているとボランティアに情報量が少なくまた話題のコントロールができない場合、話がテーマから大きく外れてしまっていた。子育て経験のあるボランティアもしくはテーマについてしっかりと知識があり適当な情報や経験などを学習者に伝えることができるボランティアが望ましいと思われる。このような適切な情報を事前にボランティアへ伝え、望ましいサポートについての指導が必要だと感じられた。

5―2．学生の感想・意見

日本語教育課程の受講生5名の学生が3名と2名にわかれ2回の授業を担当した。コーディネータを経験した後にテキストを使用した感想を聞いた。回答は自由記述で質問は「テキストを使ってみてどうだったか」「幼稚園の日本語というテーマについてどう思うか」

の2つである。

まず、テキストを使ってみてどうだったかという問いに対しては「順を追って説明していて練習もできるのでわかりやすい」「文字と文字の間隔がほどよくイラストもシンプルで見やすい」「学習者にはわかりやすく、先生の立場でも教えやすい」「テーマが大まかに説明されており、あまり細かくなりすぎていないところがボランティアの方々で補足したりすることでコミュニケーションを取れ、良かった」といった回答であった。コーディネータを設置することを意識して教材作成をしたわけではなかったが使いにくいという意見はなく、クラス学習でも用いることが可能であると考えられる。前述した通り、コーディネータ一人が与えられる情報には限りがあり、やはりボランティアの力を借りることは重要だとこの結果からも考察できた。「幼稚園の日本語というテーマについてどう思うか」という質問には「日本で生活する外国人に役に立つ内容」「幼稚園に関することは外国人のお母さんたちに必要であり、こういう機会はたくさん増やせると良い」など日本に住む外国人に対する学習の必要性とそれをサポートするべきだという認識が見られた。

6．まとめと今後の課題

アンケート結果とテキストの使用からコーディネータとして改善したいと感じたことは、各ユニットの目標の設定と新ユニットの増設、学習者のアウトプットする機会を設けること、ボランティアがテキストにない知識の提供を的確に行うことができるための情報の明示である。このうち、各ユニットの目標設定については既に実行した。ボランティアへの情報提供については、例えばユニット1「入園準備」では練習に「名前付け」があり子どもの名前を書く練習を設けたが、近年ではインターネットで名前シールを購入することができるなども必要な情報だと考えられる。現在子育て中のボランティアであればこのような知識があるが、ボランティアの多くは年齢層が高く学生は子育て経験がないためこのような情報を各ユニット内に加えることが必要だと感じた。今回の教室ではコーディネータがこの役割を行うことができたが、ペア学習で使用する際にも同じような情報提供ができる工夫が必要であると考える。

学習者用アンケートの5．今後の教室への意見・要望で「今後取り上げてほしいテーマ」について10項目から上位3つを選び回答を得た。その結果、「医療について」「マナー・ルールについて」「日本文化（年中行事など）について」の回答が多く見受けられた。また、自由記述で教室への意見を述べてもらったところ「日本の医療について勉強したい」「病院用語（小児科・婦人科）を教えてほしい」「婦人科健診について」と医療についての回答が5人中3人からあった。『お知らせを読もう』には各行事に沿った内容にしたということとアクションすることが少なかったため「医療」についてのユニットを設けなかった。しかしながら幼稚園から持ち帰る手紙の中には「保健だより」のような子どもの病気・健康に関する内容も存在したので今後はこのテーマについてのユニット新設を課題と

する。また、先述の自由回答の中に「ボランティアともっとディスカッションしたい」といった回答もあった。『お知らせを読もう』も『お便りを読もう』も読むことを目的としているため学習者がアウトプットする機会は極端に少ない。おそらくペアで学習していてもボランティアが一方的に話していることが多いのであろう。一緒に話せる工夫も必要だと思われる。また今回は9回目の教室で最後のまとめとしてユニット1からユニット9で学んだものの中から実際にお知らせを読んで持ち物の準備をする、困ったことを先生に話すといった内容の活動を行った。この活動では学習者が主体となり複数の模擬体験ができた。このような学習者が模擬体験を行えるような活動はテキスト内には練習4として設けた2か所しかない。今回は教室活動としてコーディネータが行うことができたが、今後はテキスト内にペアで使用する場合でも行える活動を記していきたい。その際、5-1. でも述べたようにボランティアの話題のコントロールも重要な課題である。一方的な情報提供にならず学習者からも情報や意見を聞き出せるような内容を検討する必要がある。またクラス学習する場合には事前にボランティアへ学習内容とサポート方法を知らせておき、準備をしてもらうと学習がスムーズに行えるかもしれない。次回は事前に内容を知らせどのような点で有効であったか調査してみたい。

謝辞

今回、私共が作成しましたテキストを使用していただきました本学関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。また、初めての教室にもかかわらずご参加ご協力いただきましたボランティアの方々、学習者の皆さん、本学学生にもお礼申し上げます。

注

(1) 幼稚園のにほんご

北原梨織子・倉橋知里・樋口尊子著　2009年立命館大学大学院言語教育情報研究科にて作成

NPO東大阪日本語教室でニーズ調査を実施。その結果から子育て中の外国人保護者が日本の幼稚園で使用することばを知り手紙を読めるようになるためのテキストを作成した。地域日本語教室でボランティアと一緒に学習するためテキストボランティア用の手引きも作成した。『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう』『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう～ボランティア用～』『幼稚園のにほんご　お便りを読もう』の全3冊。うち『幼稚園のにほんご　お便りを読もう』は現在左記のURLにて公開中。他のテキストについては検討中。

「幼稚園のにほんご　外国人ママのための日本語教材」〈http://youchiennonihongo.doorblog.jp/〉

(2) 地域日本語教室

文化庁の平成27年度の調査結果によると日本語教育実施機関・施設等数は全国で2012あり、内訳は、一般の施設・団体が1467（72・9%）大

学等機関が545（27・1％）で、そのうち一般の施設・団体についてその内訳を見ると、国際交流協会が439（21・8％）と最も多く、以下、法務省告示機関が314（15・6％）、任意団体が241（12・0％）、教育委員会が200（9・9％）、地方公共団体が196（9・7％）、社団法人・財団法人が23（1・1％）、特定非営利活動法人が20（1・0％）、その他の法人が15（0・7％）の順となっている。地域日本語教室は大学等機関以外の機関を主に指す。地域日本語教室の多くは日本語教育の専門家ではなくボランティアが活動している。

「平成27年度　国内の日本語教育の概要」
平成27年11月1日現在　文化庁文化部国語課

（3）NPO東大阪日本語教室

地域日本語教室で現在東大阪市内に7つの教室を開設している。筆者も2004年より活動を続けている。

（4）日本語能力試験

日本語を母語としない日本語能力を認定する試験として国際交流基金と日本国際教育支援協会が年2回行っている試験。N1からN5レベルの5段階評価でN1レベルが最も能力が高いレベルである。

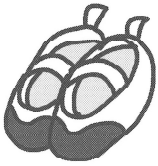
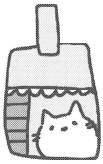
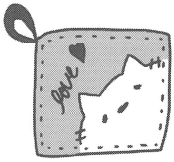
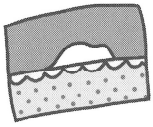
（5）日本語教師有資格者

さまざまな規定があるが今回の調査では左記の（ア）が2名、（イ）が1名であった。

（ア）日本語教師養成講座において420時間以上の教育を受けていること
（イ）日本語教育能力検定試験に合格していること

参考文献

（1）樋口尊子・浦志美奈子・渡辺菜美（2013）「地域日本語教室における1回1トピック型クラスの実践」『Web版日本語教育実践研究フォーラム報告』〈http://www.nkg.or.jp/pdf/jissenhokoku/2013_P12_iiguchi.pdf〉
（2）樋口尊子（2014）「幼稚園で使用されることばー東大阪地域における外国人保護者への日本語支援のためにー」『樟蔭国文学』第五十一号47-63
（3）樋口尊子（2016）「幼稚園における外国人保護者が必要な行動と日本語ー外国人保護者への日本語支援と自律のためにー」『樟蔭国文学』第五十二号19-33

⑦スモック すもっく	⑧上靴 （上履き）  うわぐつ （うわばき）	⑨シューズバック （上靴入れ）  しゅーずばっく （うわぐついれ）
⑩傘 かさ	⑪タオル  たおる	⑫ハンカチ はんかち
⑬ポケットティッシュ  ぽけっとてぃっしゅ	⑭歯ブラシ はぶらし	⑮コップ こっぷ
⑯コップ袋 こっぷぶくろ	⑰出席カード （連絡帳） しゅっせきかーど （れんらくちょう）	

れんしゅう１　ひらがな・絵をかくして　ことばを　ひとつずつよみましょう。

巻末資料
『幼稚園のにほんご　お知らせを読もう』
ユニット１

ユニット１

入園準備—持ち物を準備する

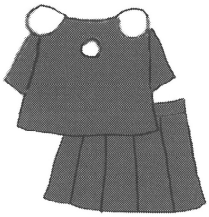
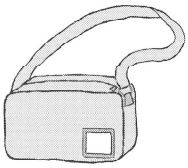
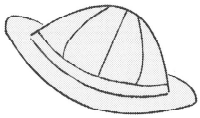
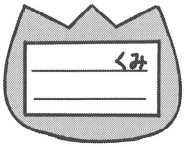
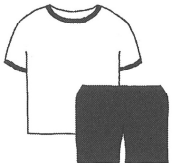
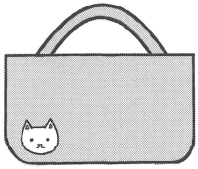
０．できること

①日本の幼稚園で使うもの名前がわかる
②お知らせ（手紙）を見て準備するものがわかる
③こどもの名前を書くことができる

１．みんなで はなしましょう

①あなたの子どもはいつ幼稚園に入園しますか。
②毎日幼稚園に子どもはどんな格好（服）で行きますか。
③毎日幼稚園に子どもは何を持って行きますか。

２．ことば（よみましょう）

①制服  **せいふく**	②通園バッグ  **つうえんばっぐ**	③通園帽・制帽 （帽子）  **つうえんぼう・せいぼう** **（ぼうし）**
④名札  **なふだ**	⑤体操服  **たいそうふく**	⑥体操服入れ  **たいそうふくいれ**

れんしゅう３　「お知らせ」を読んで準備する

①お知らせ「入園までの準備」を声に出して読みましょう。

お知らせ

××年×月×日

保護者の方へ

入園までの準備

入園するまでに１～５を準備しておいてください。

１．体操服入れ
２．上履き入れ
３．歯ブラシ
４．コップ
５．コップ袋

※制服、通園バック、通園帽、名札、体操服、スモック、上履き、

出席カードは、幼稚園で購入してください。

※ 購入…買います

②入園するまでに、どれを準備しておきますか。下のイラストに○をしましょう。

③幼稚園で買うものは　何ですか。言いましょう。

れんしゅう２－１ 左のことばの絵を右からさがして　せんで　つなぎましょう。

例）ハンカチ

①制服・

②通園バッグ・

③通園帽・帽子・制帽・

④コップ袋・

⑤上靴・上履き・

⑥上靴入れ・シューズバック・

れんしゅう２－１ 左のことばの絵を右からさがして　せんで　つなぎましょう。

⑦体操服・

⑧体操服入れ・

⑨スモック・

⑩ポケットティッシュ・

⑪出席カード・連絡帳・

⑫名札・

れんしゅう４　名前付け

「名前付け」は、

幼稚園に入園する前に子どもの持ち物全部に子どもの名前を書くことです。

注意点

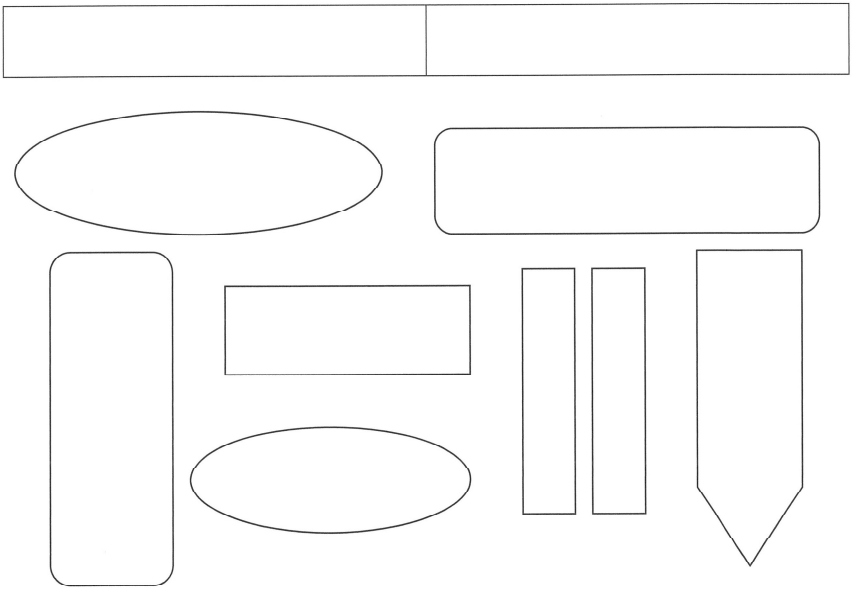
①子どもの名前を**ひらがな・カタカナでフルネーム**を書く。

②すべての持ち物に名前を書く。

③名前が消えないように**油性マジック**で書く。

④名前を書く場所は幼稚園によって決まっているところ・決まっていないところがあるので聞いておく。

①子どもの名前を書くれんしゅうをしましょう。いろんな形のものに書きましょう。



②「2．ことば」で勉強した持ち物のどこに名前を書いたらいいか話してみましょう。